

事業名：我が国の伝統文化を尊重する教育に関する実践モデル事業

学校名：廿日市市立宮島中学校

所在地：廿日市市宮島町779番地

H P : <http://www.hiroshima-cdas.or.jp/home/miyachuu/>

学校規模：3学級 34名

1 研究の概要

(1) 研究テーマ及び研究のねらい

① 研究テーマ

地域との連携に基づいた郷土の伝統行事や文化に関する内容の教育課程への位置付けと、生徒が郷土の伝統や文化に触れる機会の充実のための指導方法の工夫の在り方。

② 研究のねらい

本研究では、生徒が我が国の伝統や文化に触れる機会を充実させることにより、我が国の伝統や文化への関心や理解を深め、それらを大切にしようとする態度を育てることをねらっている。

そこで、各教科・領域において、郷土の伝統や文化を取り入れた授業展開を実践した。これにより、「体験から感じ取ったことを表現する力」や「情報を獲得し、思考し、表現する力」、「知識・技能を実生活で活用する力」、「構想を立て、実践し、評価・改善する力」を身に付けさせたいと考えた。

次に、「地域社会参画」の視点から「宮島」の地域性や地域の教育力を生かし、地域の人材を活用した授業の工夫や社会見学等の体験的な学習を実践した。これにより、「自尊・自律」「人間関係」「社会参画」等の心情や実践力を培おうと考えた。

これらの取り組みを、小中一貫教育実施に向けた教育課程・指導方法の研究における英語活動とキャリア教育を柱とした活動と関連させることにより、生徒の豊かに生きる力が一層育まれると考える。

(2) 研究組織・体制（省略）

(3) 研究内容

① 郷土の伝統や文化を生かした教材開発と指導方法の工夫

○生徒が各教科等における我が国の伝統や文化に触れる機会を充実するための教材開発の工夫。

○総合的な学習の時間における「宮島学講座」で、地域の人材を講師として招き、郷土の伝統文化を理解させるための指導方法の工夫。

○生徒が郷土の伝統や文化に触れる機会として、地域の博物館の見学を授業に取り入れる工夫。

② 地域の特色や教育力を生かした、小中一貫した英語活動とキャリア教育を柱とした指導の工夫

○郷土の伝統文化を発信できる国際コミュニケーション能力育成をめざし、自国の文化や異文化について理解を深めるため、幼小中12年間を見通

した英語活動カリキュラムを作成する。

○「情報を獲得し、思考し、表現する力」「知識・技能を実生活で活用する力」の育成を図るために、英語活動にインタビュー活動や郷土の伝統文化を発信するボランティアガイド等を位置付ける。

○地域の人材から伝統文化を学び、「人間関係形成能力」「情報活用能力」「将来設計能力」「意思決定能力」（地域社会参画能力を含む）を身に付けさせるために、幼小中12年間を見通したキャリア教育学習プログラムを作成する。

○「地域社会参画能力」の視点から「知識・技能を実生活で活用しようとする力」を育てるため、地域の人材から生き方や郷土の伝統や文化を学ぶ機会を充実させるための工夫をする。

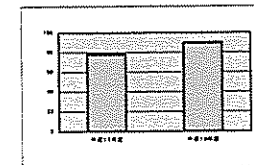
2 授業改善の視点

- ・郷土の伝統や文化を取り入れた授業内容と地域の人材を活用した授業の工夫
- ・異学年交流による伝統文化継承のための授業の工夫
- ・キャリア教育の視点を生かした各教科等の工夫
- ・地域の特色を生かした体験的な学習活動の充実

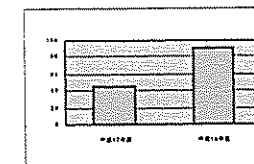
3 研究の成果と課題等

(1) 成果

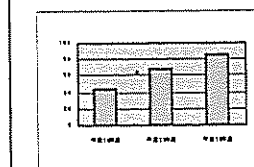
資料1 宮島の行事に関心をもち、進んで参加している



資料2 地域行事への参加率



資料3 英語でコミュニケーションがとれた



学校自己評価の生徒アンケートによると、「宮島学講座」等の取組みの結果、「宮島の行事に関心をもち、進んで参加している」と答えた全校生徒の割合が、昨年度約80%から90%に、「地域の行事への参加率」は、約45%から90%に上昇している。

この結果、各教科等に郷土の伝統や文化を取り入れた授業展開と、地域の人材を活用した授業の工夫を行うことは、生徒の「地域社会参画」への意欲を高めることが分かった。（資料1・2）

・平成16年度から、英語科で養った実践的なコミュニケーション能力の基礎を発展させる場として、週に1時間、郷土の伝統や文化を発信する国際コミュニケーション学習に取り組んでいる。この結果、初年度に比べ「英語でコミュニケーションをとることができた」と感じている生徒の割合が、約45%から85%に上昇した。このことから、生徒の国際コミュニケーション力が向上し、知識・技能を実生活で活用しようとする

ン力が向上し、知識・技能を実生活で活用しようとする意欲が高まっていると考えられる。(資料3)

(2) 課題

- ・学習後のレポート等から、郷土の伝統文化に関する学習で感じたことを、自分の言葉を用いて表現することができない生徒が多いことが分かった。
- ・総合的な学習の時間で生徒が行った、伝統文化に関する調査研究や創作活動の成果を十分に地域へ発信できていない。

(3) 今後の改善方策

- ・伝統文化の学習をテーマとした3分間スピーチやNIE活動と連携した新聞投稿等を通して、生徒が学習で感じ取ったことを表現できる場を充実させる。
- ・生徒に学習発表会を企画させ、研究発表や創作活動を地域に公開する場を設ける。

4 実践事例

(1) 音楽

① 題材 「和太鼓と杓子を用いたクラッピングミュージック」

学年 小学校6年生 11名
 中学校2年生 11名 計22名

② 題材の目標

(小学校)

○和太鼓等の演奏を通して、音楽活動への意欲を高め、基礎的な表現の技能を身に付ける。



(中学校)

○和太鼓等の演奏を通して、楽曲構成の豊かさと美しさを感じ取り、創造的に表現する技能を高める。

③ 授業改善のポイント

ア 郷土の伝統や文化を取り入れた授業展開と地域の人材を活用した授業の工夫

和太鼓の体に響く「音」や「うねり」の面白さをもたせるために「杓子を取り入れた組太鼓」という和太鼓のアンサンブル活動を実践した。杓子を用いたリズム創作を通して郷土の伝統文化を肌で感じ学習への意欲を高めることができた。

イ 異学年交流による伝統文化継承をねらった授業の工夫

小中合同授業による異学年交流を行うことで、小学生が中学生から和太鼓の技能や学習への姿勢を学び、中学生が小学生に手本を示そうとすることで、伝統文化に対する、相互の学習意欲の向上と学習内容の定着をねらった。

(2) 美術

① 題材 「平家納経の鑑賞」

学年 中学校2・3年生 22名

② 題材の目標

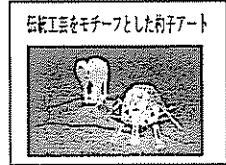
○平家納経の見学を通し、郷土宮島の伝統美術はもとより、我が国の美術文化の継承と創造に関心をもつ。

③ 授業改善のポイント

ア 郷土の伝統や文化を取り入れた授業展開と地域の人材を活用した授業の工夫

平家納経の学習に当たっては、社会科と関連付け歴史的背景について学習した。

また、作品で用いた技法を蒔絵の模写を通して学習させ、平家納経の見学を通して我が国の美術文化への興味・関心を高めた。



(3) 総合的な学習の時間

① 「宮島学講座」(地域の伝統や文化を学ぶ時間)

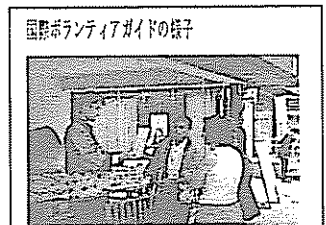
地域から講師を招いて宮島の伝統や文化を学習し、自ら思考し表現する力の基礎・基本を身に付けさせるとともに、各教科等と関連付けることで、郷土の伝統文化への関心を高めることができた。

(宮島学講座の取り組み例)

回数	内容	教科との関連
1	宮島と巖島合戦	社会科のフィールドワーク
2	平家一門の心のふるさと宮島	伝統音楽の鑑賞
3	平家琵琶との出会い「平家物語と宮島」	社会科歴史的分野「中世」・国語科「古典」

② 国際コミュニケーション学習

1年生で英語インタビュー、2年生で宮島英語パンフレットの作成、3年生で国際ボランティアガイドを実施している。生徒自身が学習の構想を立て、実践し、評価し合いながら、宮島の伝統や文化を英訳し、外国人観光客への英語ガイドを実践することで、郷土の伝統や文化への理解を深め、国際コミュニケーション能力を育成している。



(4) 成果と課題

- ・各教科等において、体験的な活動を中心とした取り組みを実践することで、生徒が郷土の伝統文化に直接触れ、伝統文化への興味・関心が高まった。
- ・宮島学講座の内容を各教科と関連づけることで、発展的な学習が可能となり、地域人材から「生き方」を学ぶことができた。
- ・国際コミュニケーション学習では郷土の伝統文化を発信しようとする中で、郷土の伝統文化への理解が進み、コミュニケーション力を発揮できた。
- ・郷土の伝統文化を英訳してガイドを実践したが、英語での質問に回答できるまでは高まっていない。